

別記様式

		担当課	教育部 教育総務課								
会議の名称	第1回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会										
開催日	令和5年10月24日(火)										
開催時間	15時00分開会・17時15分開会										
開催場所	吹上生涯学習センター 研修室1										
出席者(委員)氏名 (出席者数)	(委員) 渡部嘉夫、秋池功、飯田五郎、野中真由美、渡辺克己、富田昇 袴田亮一、須田佑季子、大野里恵、横尾臣、清水励、須田善博 牧野哲也 (13名)										
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	(0名)										
事務局職員職氏名	<table border="0"> <tr> <td>教育部長</td> <td>齊藤 隆志</td> </tr> <tr> <td>教育総務課長</td> <td>松本 直樹</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主査</td> <td>新井 洋平</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主任</td> <td>堀 智紀</td> </tr> </table> (4名)			教育部長	齊藤 隆志	教育総務課長	松本 直樹	教育総務課主査	新井 洋平	教育総務課主任	堀 智紀
教育部長	齊藤 隆志										
教育総務課長	松本 直樹										
教育総務課主査	新井 洋平										
教育総務課主任	堀 智紀										
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(傍聴者0名)										
会議の内容	(議題) 1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 懇談内容 ・大芦小学校と吹上小学校の統合について 5 その他 6 閉会										

(事務局説明内容)

・鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会に諮問し、令和4年8月26日に答申書が提出されている。

・答申の中で、吹上小学校との統合予定年度を令和6年度から9年度として再編することとしている。令和9年度を期限としているのは、令和9年度以降、新入学児童数が一桁となる見込みの年度もあるなど、現在よりもさらに学校規模が小規模化してしまうため、現実的に市内の他の学校との教育環境の格差が広がってしまうことから、そこまでには一定の結論を出したいと考えたもの。

・大芦小学校については、平成27年の適正規模・適正配置の取組以前、1市2町の合併前から、通学区域の変更等についての議論がされており、平成16年12月に吹上町時代の通学区域審議会から「現在、吹上小学校の通学区域となっている吹上富士見地区を、大芦小学校とすることは望ましい」という答申をいただいたことから、合併後の鴻巣市において、検討を進めてきたが、吹上小学校及び吹上中学校の校舎改築、大芦小学校を含めた吹上地域の南側地域の状況が大きく変化してきたことから、改めて、平成19年3月の鴻巣市立小・中学校通学区域審議会において「明確な年度を設定し、実施することは困難である」という答申が提出され、通学区域の変更は凍結となった記録がある。

その後、平成24年2月の審議会でいただいた、吹上小学校、大芦小学校の通学区域の見直しについては「白紙に戻す」という答申を尊重し、通学区域の変更は見送られることとなっている。

教育委員会としましては、今後の人口減少に伴う、児童数の減少の推移を見込みますと、同じ議論ではなく、あくまでも、将来に向けた子どもたちの教育環境を整えるために、吹上小学校との統合に向けた取組を行いたいと考えている。

(懇話会委員の主な意見)

・資料1の答申書が提出された際に、適正配置等審議会を傍聴した。裏面の予定年度で令和6年度～令和9年度と示されているが、これは予定であり、決定事項ではないということを知っている。また、表面にも具体的な統合方法や統合年度については、今後、保護者等と意見交換した後に決定するということが記載されている。

予定年度については、あくまでも予定であり、決定事項ではないという認識でよいか。
⇒決定事項ではない。

・吹上富士見4丁目の通学区域を大芦小学校に変更するという噂が流れ、保護者が非常に不安を感じている。今後、そのような議論も考えられるのか。

⇒教育委員会としては、全国的に少子化が進んでいる中、通学区域を変更して、一時しのぎの対応は考えていない。通学区域の変更ではなく、答申にもあるとおり、吹上小学校と大芦小学校の統合を検討している。

・吹上富士見4丁目についても、児童数は減少傾向。通学区域を変更して、将来、再度変

更することは考えられない。将来も踏まえて検討してもらいたい。

・学校の統合について、初めて知ったのは令和4年の広報5月号。小谷小学校の通学区域再編について、その際示されたものと異なるものが提示されている。

また、小谷小学校の通学区域を一部、箕田小学校に変更することから、現在、箕田小学校に通学している地域を鴻巣北小学校に変えている。この議論がいつ、どのように議論されたのか分からないが、あまりに急な変更ではないか。

⇒現在、箕田小学校に通学している下町及び二本木地区を鴻巣北小学校に変更については、急な話ではなく、二つの地区の保護者から、「近くに鴻巣北小学校があるのに、なぜ遠い箕田小学校に通学しないといけないのか。鴻巣北小学校に通学させてもらえないか。」といった要望を以前からもらっていた経緯がある。そのような保護者の声があったことから、保護者等との意見交換会を実施し、通学区域審議会を経て、下町及び二本木地区の通学区域を鴻巣北小学校に変更している。なお、小谷小学校の通学区域変更とは関係はない。

小谷小学校の通学区域の変更について、なぜ、当初示した吹上小学校との統合ではなく、箕田小学校や赤見台第二小学校も含めた計画を示しているのかについては、箕田地域と同様、小谷南地域（武蔵水路付近）に在住の方から、以前より箕田小学校を通学区域としてほしいといった意見を多くいただいていた。また、意見交換会やアンケートにおいても意見をいただき、それらを踏まえて検討した結果、当初の教育委員会の考えを改め、新たな案を示すことになった。

・以前、北新宿地区の通学区域を吹上小学校から下忍小学校に変更している。これは、小谷小学校と大芦小学校の統合を見据えて、枠を空けたものではないか。

⇒北新宿地区の通学区域変更は、適正規模・適正配置の取組で実施したものではない。洲崎橋とその先の踏切における通学の安全性に課題があることから取り組みを進めたものである。小谷小学校と大芦小学校の統合とは関係はない。

・大芦地域の方に聞きたいが、今回の統合に反対しているのは地域の方なのか、それとも保護者なのか。自分の周辺では、賛成している保護者が多いが。

⇒学校でのアンケートも実施したが、地域はもちろん、保護者や児童の多くが反対している。

・通学区域を決定するにあたって、具体的な判断基準はあるのか。

⇒教育委員会として、具体的な判断基準は設けていない。通学距離や通学路の安全性、自治会等を総合的に考え、当時の教育委員会が通学区域を定めたものと考えている。要望が多くある地区については、保護者等と意見交換会を実施する等した上で変更している。

・自由学区制は検討しないのか。都内でも実施しているところはあると聞いている。

⇒入学する前の保護者は、その学校のことを詳しくは知らない。噂で聞いた情報や友人関係など、正確でない情報に左右される形で、学校を決めてしまうことになる。その結果、一方の学校が大規模化し、もう一方が極端に小規模化してしまうなど、結果として子どもたちにとっては良い教育環境といった形にならない場合もある。

・統合の最終判断については、教育委員会が判断するのか。

⇒教育委員会で判断する。

・令和6年度～令和9年度に段階的に統合していくのか。

⇒だんだんと子どもたちが少なくなるのではなく、統合年度を定め、一斉に統合することを考えている。

・学校統合をすることで、吹上小学校の教室数が足りなくなるのではないか。

⇒資料2に今後の児童数の推移を示している。吹上小学校については、今後、児童数が減少していくことが推測されている。大芦小学校と統合しても、現在の児童数くらいであり、教室数については足りる見込みとなっている。また、現在の児童数であれば、教育環境としても問題なく、滞りなく学校生活を送ることができている。

・笠原小学校と鴻巣中央小学校の統合に関する意見交換会等、過去に実施した意見交換会の内容を公開してほしい。また、過去の大芦小学校における通学区域変更に関する経緯も示してほしい。

・北新宿地区の児童数は増加していると思われるが、下忍小学校の教室数が足りなくなることはないのか。吹上地域の児童数を考慮して、計画を検討するべきではないか。

大芦小学校と吹上小学校の児童数のみではなく、下忍小学校と小谷小学校の児童数の推移についても示してもらいたい。

・学校の統合が行われた場合、避難所はどうなるのか。コスモスアリーナも避難所に指定されているが、そこまで避難することは難しい。地域の拠点としても活用されているということも含めて検討してもらいたい。

・吹上小学校だけでなく、南側にもう一つ学校はあったほうが良い。大芦小学校と小谷小学校の統合も検討するべきではないか。

・児童数の推移について、今後、吹上地域が発展しないという予測のもと、この数字を出しているのではないか。学校をなくすということを前提に話を進めるのではなく、まずは大芦地域をどう発展させていくかということを行政が検討しなくてはいけないのではない

か。熊本や北海道では半導体の工場の誘致を行っている。市として、県や国に何かしらの働きかけをしてもらいたい。

⇒地域を発展させたいというのは、行政としても同じ考え。しかし、現実的に、大芦地域は市街化調整区域であり、田畑の開発に関しては法律で制限がかけられている。

誘致という点に関しては、熊谷バイパス沿いに、新たな産業団地を新設しているところである

今後、大芦地域が発展し、児童数が増加していく可能性がないわけではないが、それを待って、現在の子どもたちが直面する課題に向き合わないわけにはいかない。今の子どもたちのために、教育委員会としてできることをすべきと考えている。

・地域から学校がなくなると、さらにその地域は廃れてしまう。

過去に児童数が増加した際に、新たな学校を新設して、強制的にその学校に通学区域を変更している。今回は、学校を無くさないために、行政が通学区域の変更を強制してでも行うべきではないか。

・保護者の意見も様々あると思うが、廃校ありきで取組みを進めてほしくない。少子高齢化で学校統合をしないとならないという判断は理解できるが、未来志向として人口が少しでも増えるように考えてほしい。

・大芦小学校は校庭も広く、のびのびと学校生活を送ることができる。大芦小学校に通学させたくないという率直な気持ちを聞きたい。

⇒少人数の良いところは重々承知しているが、大芦小学校は小規模化が進んでおり、各学年一クラスしかない。学年によっては、男子の人数が5人しかない学年もある。そのような中、6年間を過ごすことに疑問を感じる面があった。実際、吹上小学校にてクラス替えが行われる中、多くの友人関係を築くことができている。

また、校舎の老朽化が進んできているのも理由の一つ。

・吹上小学校と大芦小学校を統合した際に、大芦小学校を改装して、利用することは考えられないのか。

⇒考えられないことではないが、吹上小学校の築年数や改装にかかる費用等を考えると難しいのではないかと考える。

・12～18学級の学校と小規模校を比較したときに、双方にメリット・デメリットがあると思うが、校長の意見を聞かせてほしい。

⇒小規模校にもメリットはあるが、10人を割り込んでくると実施できないことも増えてくる。個人的には20人くらいがベストの人数と感じており、そこから減っていくと問題が表面化してくると考えている。

また、多くの意見に触れることができるのは非常に大事なこと。少人数の場合、意見の強い子がいると、それが鶴の一声となり、決まってしまうことが多々ある。中学校になってから、多様な意見に触れる機会を設ければ良いのではないかという意見もあるが、個人的には小学校のうちから、そのような機会をもつことは大切だと思う。

・少子化の時代、適正規模・適正配置はやむを得ないこと。しかしークラスの人数が30人弱に保てるよう、市として手厚い支援が必要ではないか。

今の時代に合わせて、新しい教育環境を提案してほしい。

・吹上小学校ではなく、大芦小学校を残し、30人学級を行ってほしい。

・はじめて適正規模・適正配置の計画を知ったのが令和4年度の広報5月号。直接関係してくる保護者や児童に話があるわけでもなく、このように公表することに対し、疑問を感じる。その後、意見交換会を実施しているが、ただ意見を聞いているという感じがぬぐえない。

・不登校の原因というのは多々あると思うが、適正規模・適正配置の取組により、不登校になってしまった場合、誰が責任を取るのか。

⇒明確ないじめがあったというのなら、話は別だが、不登校の責任がどこにあるかというのは難しい。鴻巣中央小学校と笠原小学校の統合の話をさせてもらうと、迎える側としても、児童だけでなく、教職員に対してもその心構えなどを指導している。

子どもは大人が思っているよりスムーズに新しい環境に溶け込むことができる。

対して、大人は難しい面もあり、PTA活動等のすり合わせは非常に大切。

また、仮に不登校になった場合、それはその子にとって、大きな壁となるが、それを乗り越える力をつけるための大切な教育機会と考えている。

・志木市では学校と公共施設の複合化に取り組んでいる。子どもたちの教育環境を維持、改善していくためにも、効率的な公共施設のあり方を検討していく必要があるのではないか。

・小谷小学校が箕田小学校、赤見台第二小学校、吹上小学校との通学区域変更を検討しているが、大芦小学校も入れてほしいといった意見は、小谷小学校の保護者等からはなかったのか。

⇒大芦小学校と小谷小学校の2校の統合が良いのではないかという意見があったが、現在、提案している3校に加えてほしいといった意見はない。

・学校を教育委員会が定めた適正規模校にしたいのであれば、吹上富士見4丁目等の通学

	<p>区域変更も検討するべきではあるが、個人的には小規模校でも全く問題ないと考えている。</p> <p>・もう一度、通学区域の見直しを検討してほしい。過去に白紙になった経緯があるということではあるが、それはあくまで過去のこと。今の人たちと検討するべきではないか。そのような検討もしない中で、学校の統合を実施することについては断固反対。</p> <p>・兵庫県明石市は教育にかける費用を大幅に増加させ、それにより人口が大幅に増加している。なぜ明石市ができていくことが鴻巣市でできないのか。所沢市長選挙において、元明石市長の応援を受けた立候補者が当選した。鴻巣市でも昨年、市長が変更となったが、市民の声に応じて、子どもたちにかけるお金を増やすなど、前市長からの政策変更を行わないのか。</p> <p>・大芦小学校では林間学校に行くことができたが、吹上小学校では行くことができなかった。学校間で差があることについて、良いこととは思わない。</p> <p>・子どもの意見をよく聞いてもらいたい。 ⇒自分が通っている学校が無くなってしまうことについて、子どもたちは反対だし、悲しい気持ちになる。これは当然のこと。今、意見を聞くのは子どもたちの不安をあおることになるのではないか。 統合が決まり、それに対して、子どもたちがどのような不安を抱えているのかを確認し、支援することが大切ではないか。</p> <p>・子どもが事前に顔見知りになれるよう、交流事業等を積極的に実施してほしい。1, 2回でなく、多ければ多いほど良いと思っている。子どもたちの不安をできる限り軽減できるよう、取組を検討してもらいたい。</p>
配布資料	<p>① 第1回鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会次第</p> <p>② 【資料1】答申と計画</p> <p>③ 【資料2】大芦小学校周辺図と児童数の推移</p>